

表したいものへの思いを持ち、自分らしい表現で伝えようとする生徒の育成

— 視覚伝達デザインの学習におけるかかわり合いを通して思考力・判断力・表現力を育てる —
— 中学校 2 年生「正方形から広がる不思議な世界」の実践から

1. 授業の構想

美術における思考力・判断力・表現力といった力は、創造的な活動を通して創意工夫し試行錯誤を繰り返す一連の過程の中で育成されると考えた。そこで、本単元では色面構成による表現と鑑賞の活動を通して視覚伝達デザインの学習を行う。表したいイメージや思いを、自分らしい表現で仲間に伝えるために、形や色彩などの性質やそれがもたらす感情などについて考え、構成や配色などの過程で創意工夫と試行錯誤を繰り返す中で思考力・判断力・表現力といった力を育成できると考える。

思考力・判断力・表現力の育成に向けて、課題解決の過程の中で評価・改善の場を設定し、ふりかえりの活動を通じて自分がどのような工夫をし、そこに何を反映させたかを言語化させていく。言語化することで自分の考えなどを確認し整理することで制作意図が明確になっていくと考える。

かかわり合いの活動の中で、思考力・判断力・表現力を育成するために子ども相互の思いや工夫、発見や理解したことなどについての情報交換を、次の三つの場で行う。

⑦題材との出会い；参考作品による鑑賞を通して、イメージの共有化を図る。

⑧表現の過程；試作品の鑑賞やふりかえりを通して、表現方法などの工夫の共有化を図る。

⑨作品の完成；完成作品の鑑賞を通して、創造活動の一連の過程を通して、創意工夫・試行錯誤する中で学んだことについて情報交換する。

本中学校 2 年生は、熱心に学習に取り組む姿勢が高く、豊かな感性や直感的な理解力、自分の考えを言葉で伝える力などに優れていると考える。作品の表現の工夫やテーマを読み取り班で意見をまとめる活動では、個々に意見を出したものを書き留めるような活動にとどまってしまうが、見る・考える・話す・聞くという学習の姿はありグループで意見を共有できる。しかし、課題について仲間に積極的に問いかけ、グループで考えをまとめたり深めたりする話し合い・まとめ・発表の活動についてはあまり得意ではない。今後の取り組みを通して、自ら課題に気付き解決していく力と意欲を育成していく必要がある。仲間とのかかわり合い・学び合いの活動を様々な方法を取りながら繰り返し設定していく中で、豊かな学びとコミュニケーションが成り立つようにしていきたい。

本題材は、正方形の黒い画用紙と50色のトーンカラーを材料に、イメージに合わせてカッターナイフやデザインナイフで切り取り、のりやボンドで貼り付けて色面構成を行う題材である。絵の具を使って彩色する色面構成でよく見られる塗りムラ、絵の具が線からはみ出してしまうなどのつまずきはないため、彩色に苦手意識をもっている生徒でも意欲的に制作に取り組むことができる。また、画用紙の枠内を線で分割して表現する一般的な構成の方法ではなく、正方形の画用紙の切り取った形を外側に“展開”したり“飛ばし”たりする独特の構成方法で表現していく題材である。この題材は完成に至るまでに何度も構成や配色を検討し、よりよい表現を模索していくことが可能である。切り取った形を基に、創意工夫と試行錯誤を活かして表現できるので、発想の段階では思いつかないような複雑な構成や配色をすることが可能になる。直感的な美的判断をしながら表現できたりするので、形や色彩の性質、それがもたらす感情などについて体験的に理解するのに適している。また、リズムやバランス、アクセントなどの構成美の要素も効果的に活用して表現させたい。モチーフはそれぞれ自分の表したいイメージやテーマによって、具象的なものや抽象的なものであったりするが、具象的な形でも単純化・象徴化・誇張化などでイメージを発展させることが可能である。

本題材では、イメージを造形で美しく効果的に伝えるために、形や色彩の性質やそれがもたらす感情について意識して表現できたり、形や色彩の特徴などを基に対象のイメージをとらえたりする力を高めていくことが大切である。そのため自分の表したい感じを言葉に置き換えることで意図を明確にしたり、他者と共有できたりすることが大切である。

図画工作科・美術科で願う豊かな学びの姿とその実現に向けた手立てを以下に示したい。

- 体験から感じ取り，体験を活用して自分らしい表現を追求しようとする姿
 - ・制作の前に試作を行ない，体験的に基礎・基本的な知識や技能の習得を図ることで，体験を活用してより高い表現につなげていく。体験から感じ取ったことを基に発想・構想できるので，イメージに広がりが見られると考える。
 - ・評価・改善の場面の設定。学習を通して気付いたことや感じたことなどをふりかえりシートに毎時間記入し，学習内容の確認と自己評価を行なう。ふりかえりの活動で言語化し記録するによって，自分が課題解決に向けてどのように思考・判断し，表現したか（したいか）を意識化させたい。また生徒の学習の状況や成長の様子を把握し，課題解決に向けた手立てを考えるのに有効である。
 - 互いの考えを伝え合い，自分や仲間の表現を発展させようとする姿
 - ・鑑賞を通した仲間とのかかわり合いの設定。話し合い・まとめ・発表などの活動や説明し合ったり批評し合ったりする活動などを通して，学び合ったことを活かして表現を発展させていく。
 - ㊦題材との出会いの場で話し合ったことをまとめ発表する。作品に見られる形や色彩から，テーマと表現方法の工夫を読み解き（思考），それぞれ意見を交換する（表現）。様々な意見の中から共通の意見や重要な意見などを見つける（判断）。グループ以外の人と自分たちが学んだことを伝え合うことで（表現），学びを共有させる。
 - ㊧表現の過程で体験的に学んだことや工夫したことなどについて話し合う。特に材料や道具，表現方法の工夫について仲間と共有する。美しく曲線や直線を切る工夫やきれいにのりやボンドを貼り付ける工夫について（思考），どのような考えを基にこのような構成や配色にしたのかについて（判断），仲間の考えから，発想・構想や創造的スキルなどのよさなど，自分の作品に活かしたいと思うすばらしい所について話し合う（表現）。この話し合いで自分の活動に対する評価・改善と作品の見方や感じ方を広げることもつなげたい。
 - ㊨作品の完成の場でこれまでの活動をふりかえり，どう考え，どう判断し，どう表現したかを確認し合うために，グループでの鑑賞と全体での鑑賞を行なう。まず，グループでの鑑賞はグループ全員の作品について制作カード（鑑賞ワークシート）に記述する（思考）。全体での鑑賞は，自分がこの人に自分の思いを伝えたいと思う作品を選び（判断），自分がこれまでに学んだことを活かしてメッセージカードとして付箋に記述し作者に渡す（表現）。自分が選んだ作品から感じたことや考えたこと，友だちの表現から読み解き判断したこと（学ぶべきよい点や改善すべき点），それを自分の学んだことを活かしてどのようにその友達に伝えればよいかを考えさせる。
- 美術の授業における言語活動で特に大切にしたいことを次にあげる
- ㊩自分の感性に合う言葉を探し表現すること。感動や実感のともなった言葉で相手に伝えること。
 - ㊪漠然としたり感じたりするのではなく，言葉に置き換えて整理し直すことで思いを再確認すること。
 - ㊫教師が意図的に学習用語を使うなどして，美術でよく使われる言葉への興味や理解を深めること。
- 思考力・判断力・表現力の育成に向けて，その基盤となる言語活動の充実を図っていきたい。

2. 活動計画（全12時間）

次	主な学習活動・内容	時	具体的な学習活動
1	【導入】 ・対話型鑑賞：参考作品を全体で鑑賞する ・グループ鑑賞：過去の生徒作品を班で鑑賞する	1	これからの活動の内容を理解し，見通しを持つ ・視覚的な情報をもとに，作品の特徴を読み取る ・作品のテーマや表現の工夫について話し合い，意見をまとめ，発表する
2	【試作】 ・制作のシミュレーション 材料や道具の特徴や扱い方，制作の工程や表現方法など，体験を通して理解する	2	基礎・基本的な知識・技能を習得し，具体的に表現のイメージをとらえる ・ミニサイズの作品を制作し，形や色彩の組み合わせを考え，切る，貼るといった作業を体験する

3	【試作品の鑑賞】 <ul style="list-style-type: none"> ・班で試作品を鑑賞しギャラリートーク ・教員の講評 	1	活動をふりかえり、仲間の作品からイメージを広げる <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫や改善点を話し合い、活動をふりかえる ・造形的な良さや取り組みの良さを全体で確認
4	【アイデアスケッチ・下描き】 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを基に、様々なアイデアを考える ・スケッチの中からひとつ選び、黒い画用紙に下描きする 	1	体験を基に、自分の表したいテーマとイメージを発想し、作品の構想を練る <ul style="list-style-type: none"> ・“展開”と“飛ばし”の表現効果を考えスケッチする。 ・スケッチの形を整理し、黒い画用紙に下描きする
5	【カット】 <ul style="list-style-type: none"> ・安全に作業する方法や美しく切る方法を再度確認する ・習得した知識・技能、創意工夫を生かして丁寧に作業する 	2	習得した知識・技能を活用し、作業を進める <ul style="list-style-type: none"> ・直線はカッターナイフ、曲線はデザインナイフなど道具を使い分けて美しく切り取る ・刃物類の準備、使用、片付けなど、安全面に注意して活動に取り組む
6	【構成・配色】 <ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想を基に、創意工夫や試行錯誤を繰り返し、表したいイメージを発展させる ・テーマを基に、色の性質や感情を考えて配色を検討する 	2	思考・判断・表現を繰り返し、テーマに合った形や色彩の組み合わせを追求する <ul style="list-style-type: none"> ・“展開”や“飛ばし”の表現手法を用いて、リズムやバランスなどの構成美やおもしろい構成を見つけ出す ・テーマを基に効果的な形や色彩の組み合わせを考え、試行錯誤の中で美的判断し、美しい表現を追求する
7	【カット・貼り付け】 <ul style="list-style-type: none"> ・トータルカラーのカット・ボンドやのり、ヘラやピンセットなどを用いて、切り取ったパーツを丁寧に貼り付ける 	2	習得した知識・技能を活用し、作業を進める <ul style="list-style-type: none"> ・配色計画を基にトータルカラーを丁寧にカットする ・美しく貼り付けるために、紙や接着剤など材料の性質を考え、工夫を活かして貼り付ける。画用紙はボンド、トータルカラーはのりを使う ・作品や机を接着剤で汚さないように注意して活動する
8	【完成作品の鑑賞】 <ul style="list-style-type: none"> ・班での鑑賞 班の仲間の作品について制作カード（鑑賞のワークシート）に記述。 ・全体での鑑賞 クラスの仲間の作品から選び2種類の付箋に記述し、作者に渡す 	1	仲間の作品を鑑賞し、活動をふりかえる <ul style="list-style-type: none"> ・班の仲間の作品の造形的な良いところや工夫を記述。記述を基に班で学びの共有・互いのよさの認め合い。 ・クラスの仲間の作品の中から二つ作品を選ぶ。ひとつは作品の良いところ、そこから学んだこと、応援メッセージ。もうひとつは作品の良いところ、自分の学びを生かしてアドバイス、応援メッセージ。

評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	共通事項	思考力・判断力・表現力
表したいものへの思いをもち、自分らしい表現を追求しようとしている。かかわり合いを通して自分の活動を改善しようとしている。	表現したいテーマを考え、予測や経験を基に、形や色彩の効果を考えながら、表現したいものが伝わるように、組み合わせを工夫しようとしている	美的感覚を働かせながら試行錯誤の中でより良い表現をめざそうとしている。習得した知識・技能を活用し、作品を美しく仕上げようとしている	形や色に込められた思いや表現の工夫を感じ取ることができる。	形や色彩の性質や感情を感じ取り、その魅力を味わうことができる。形や色彩を効果的に表現に生かそうとする。	仲間とのかかわり合いや体験的な活動を通して創意工夫・試行錯誤を繰り返し、評価・改善をしていく中で、より良い表現をめざそうとしている。ふりかえりの活動で思考・判断・表現したことを言語化し意識化することができる。

3. 授業の実際

(1) 題材との出会い (導入)

①対話型鑑賞 (出会う)

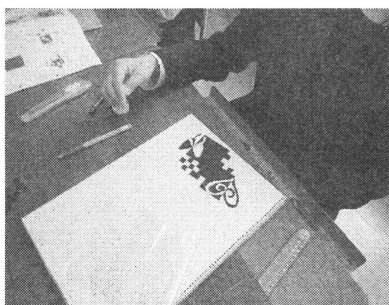
視覚伝達デザインに対する意欲化を図る目的で、形や素材、表現方法などの視覚情報をたよりに読み解く活動を行なった。教師が用意した作品について全員で“見る・話す・聞く”ことを通して、これから取り組む題材名を当てようというゲーム性を取り入れた鑑賞を行った。作品から読み取れる視覚情報をたよりに、気付いたこと、考えたことなどを発言させ、板書でまとめていった。最初は作品に描かれているモチーフについて着目していたが、素材や表現方法に着目していき、正方形の黒画用紙を対称にして、作品のイメージ(形)が内から外に広がっている、というこの題材の大きな特徴をとらえることができた。また、この作品の全体的な印象から想像し、不思議な世界を表現しているということを感じ取ることができた。生徒たちはこれから取り組む題材の特徴をつかみ、視覚伝達デザインの働きについて全体で共有できたのではないかと思う。

②グループ鑑賞 (知る)

より多くの生徒がイメージをつかめるように、グループ(班)で話し合い・まとめ・発表の活動を行なうことで全員が参加できるかかわり合いの活動にした。まず、過去の生徒作品を班で2点ずつ用意し、作品から読み取れる情報(形・色・材料・表現方法)を基に、主題・発想・構成・配色など表現のよさや工夫について感じたことや考えを話し合う活動を行なった。次に、この題材ではどのような工夫をして表現していけばよいか、作品から読み取ったこと(話し合いの意見)を記録させ、班の意見として要約させた。また、自分たちが話し合いを通してわかったことを他の人たちにきちんと説明できるように最後に、作品を示して全体の前で発表する活動を行なった。鑑賞者から質問が出れば発表者がきちんと説明するように求めた。班ごとに鑑賞した作品の特徴が異なるので(全体で12作品)、より多くの表現の工夫について全員が確かめ合うことができた。

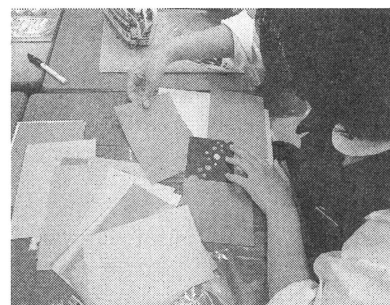
(2) 作品づくり (展開)

①試作 (試す)



手を動かしながら考える中で、アイデアを修正・発展させている姿が見られた。

実際に体験してみることで、道具の扱い方や表現方法のイメージをつかむことができた。



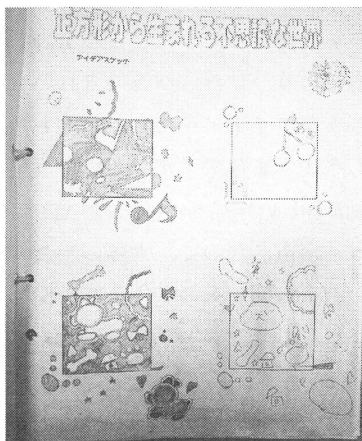
②グループ鑑賞：試作後のギャラリートーク (広げる)

試作を通して気付いたことや工夫した所、友だちの作品のアイデアのおもしろさなどについて話し合う中で(学び合い・認め合い・高め合い)学習のふりかえり(評価・改善)を行い、鑑賞のワークシートに記述させた。本番の制作に活かしたい造形の工夫について下のような記述が見られた。

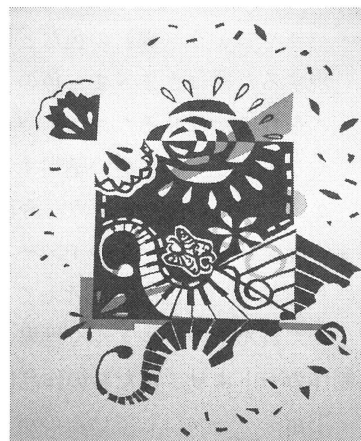
- ・大きい図形と小さい図形のバランス。
- ・色がだんだん変化していくときれい。
- ・同じような色の中に少だけ違う感じの色を入れると雰囲気が出る
- ・トータルカラーを黒い紙からわざとはみ出さすと大胆さとおもしろさが生まれる。



③本制作（深める・広げる）



試作（シミュレーション）をする前のアイデアスケッチと比べると、より複雑で、具体的なイメージのスケッチができるようになった。
本制作では、試作や鑑賞を通じたかかわり合いによる評価・改善を活かして取り組むことができた。表したいテーマを基に、自分らしい表現を追及する姿が見られた。



(3) 鑑賞（まとめ）

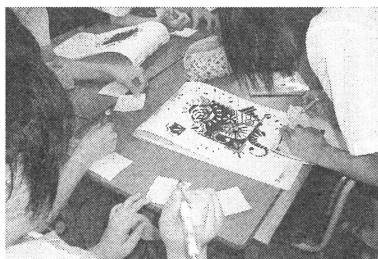
①グループ鑑賞：完成作品（味わう）

作品の完成後、自分たちの作品を班で見せ合い、仲間の作品のいいところや工夫しているところをできるだけ具体的に記述する。お互いに記述したワークシートを見せ合い、造形表現の工夫によってテーマ（自分の表現したい世界観）が仲間に伝わっていたかどうかを確認し、よさを評価し合う。

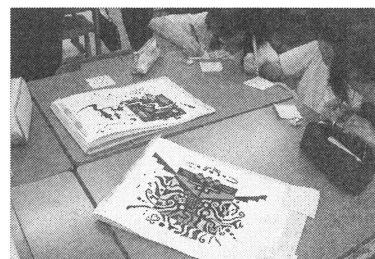
②全体鑑賞：メッセージカード・批評（まとめる）

班による鑑賞後、クラス全員の作品を鑑賞する。自分の感じたことや考えたことを基にした作品の批評を2種類のメッセージカード（付箋）に記述し、友だちに伝える。友だちからもらった批評を読み、自分の表現をふりかえる。1枚は、いいと思う所（テーマやその人らしさが表現できているなど）、学べたところ（構成や配色の工夫や切り方・貼り方など技能面のよさなど）、応援メッセージ、氏名。もう1枚は、いいと思う所、こうすればもっと良くなるのでは？と思うところ（自分が学んだことを生かして具体的にアドバイス）、応援メッセージ、氏名。

批評する際には、必ず氏名を記入し、コメントには責任をもつように心がけさせている。



これまでの学習を活かして友だちの作品を批評する。コメントを記述する時は相手のことを考え、どう書けば自分の思いが相手に伝わるかを判断し、相手にとってよかったと思う言葉で表現することを意識して記述する。



4. 成果と課題

(1) 成果

課題解決に向けたかかわり合いを通して思考力・判断力・表現力を育成するために、かかわり合いによる評価・改善の機会を設けたことで、表現のレベルと表現に対する意欲を高めていくことにつながった。試作を通して素材や道具、表現の方法を経験したことで作品のイメージをつかみやすくなり、鑑賞の活動で学びを共有したことでイメージを広げることができた。仲間とのかかわり合いや試作・鑑賞を通して習得した基礎・基本的な知識・技能は、発想から完成に至る表現の一連の過程の中で活用され、作品のイメージを深化・発展させることにつながった。かかわり合いの中で仲間から認められることで自分の表現に自信をもち、学び合いの中で自分の表したいイメージや表現の意図をより明確にすることができた。表したいことへの思いをもち、自分らしい表現で仲間に伝えようとする生徒や仲間の作品から積極的に表現のよさや工夫を感じ取り、自分の思いを仲間に伝え交流しようとする生徒の姿に迫ることができたのではないかと考える。以下の制作カードによるふりかえりからもその姿がうかがえる。

制作カードより：自分の作品を振り返って

- ・バラやちょう（蝶）の色などにグラデーションを使うところがよくできた。ちょうがとんできたところを表現するためにさまざまな色のトータルカラーを切りきざみ、ちょうのとんだ道にはりつけた。バラのきれいをひきたたせるために、バラの下にトータルカラーをはった。とてもさまざまなアイデアをだし、何度もやり直しをして自分の納得するまで制作に取り組んだ。今までよりも、とてもさまざまなアイデアが思いつくようになったと思う。今後も、さまざまな自分らしいアイデアをだし、素晴らしい作品をつくりたい。
- ・作品全体から、自分のイメージが伝わりやすいように構成しました。テーマは「宇宙」なので、太陽の当たり方などで、色を色々考えてトータルカラーを使った。左側は夜、下は夕方、右上は朝、その3色全てを備えた真ん中のグルグルを世界の中心とした。

制作カードより：友だちの作品について（①グループ鑑賞：完成作品）

- ・宇宙をテーマにしているのがよく分かった。たくさんの星の色あいが、赤や黄などの活発な色を使っていてきれいだった。トータルカラーのはり方が大胆ですごいと思った。
- ・ピンク色や水色などのほんわかした色が使ってあって優しい雰囲気だった。山や月があって物語みたいだった。「展開」「飛ばす」がしっかりできていた。

Y・Mさんの振り返りとY・Mさんの作品を通したかかわり合いの活動の様子から

作品完成後の感想文より（作品の裏に記述）

テーマ「アリスの世界」

今まで美術をやってきた作品の中で一番よくできたと思います。私が「やってみたいな」と思っていたことだったのでとても楽しく作業することができました。残念だったことは、のりやボンドがはみだして、テカテカしているところとよくはれなくてピロピロとしているところがあるところです。この制作を通して、ていねいに、スピーディーにすることの大切さを学びました。次回は何をするか分からないけど、今回分かったことを生かしたいと思います。

完成作品の鑑賞のメッセージカードより（付箋を作者に渡し作品の裏に貼る）

- ・色あい、とばし方、組み合わせetc. すごいです！不思議の国のアリスですか？とってもかわいいです！！カットは細かくていねいにしてあるし、色のバランスもすごく考えてあって、注目できる作品でした。

O・Yより（女子）

- ・にぎやかな感じの世界観がきれい&楽しそうです。色合いのバランスがいい。とても細かいです。

E・Hより（女子）

- ・とてもかわいいですが「はり方」がちょっとボコボコしているのがもったいない。でも、そこを完ぺきにしたら誰にもまけないと思います。

M・Rより（男子） 他多数のメッセージあり。

友だちからのコメントを読んで（作品の裏に記述）

皆ほめてくれてうれしかったです。私が心配していた「ごちゃごちゃ感」も「にぎやか」と見方をかえてくれて感動しました。直すところはやはりボンドの使い方です。黄緑のふせんに全て書いてありました。私もやはりなと思いました。どうも私は細かい作業が苦手なようです。せっかくつくった作品も汗などで黒くなってしまふし……。次からはハンカチをして作業しようと思います。

(2) 課題

制作の場面では、創意工夫し試行錯誤している姿があり作品の表現が発展していく場面が多く見られた。しかし、どのような考えや判断を基にこの表現に至ったのかを知るためには、机間支援などの際に聞くかふりかえりの活動の記述から読み取っていく必要があった。生徒たちは自分の感覚を基に直感的に思考・判断していることも多いので、なぜこのような表現になったのか言葉や文章で明確に表現できない場合も多かった。今後の課題として、ふりかえりの場面での記述や学び合いの場面などの発言から、思考力・判断力・表現力の高まりを読み取れるような項目や発問の工夫をしていく必要がある。また思考・判断を促しやすいワークシートの開発も必要である。

（文責 渡邊賢太郎）